

発表番号 1 1

「森林総合監理士の活動と今後の展望」

～准フォレスター研修成果を踏まえて～

関東森林管理局 森林整備部技術普及課（利根沼田森林管理署）

森林技術普及専門官 高田 悟

1 背景

平成25年12月、第一期生となる全国264名の森林総合監理士（通称：フォレスター）が誕生しました。

森林・林業再生の柱として始まった日本型フォレスター制度確立の取組が、資格試験の開始を経て第二段階に入ろうとする今、関東森林管理局において実施してきた准フォレスター研修の足跡をたどりつつ、更に見えてきた課題を整理するとともに、各地域で動き出した活動とバックアップ体制づくりなどの新たな動きにも目を向け、これから求められる取組と森林総合監理士の活躍に向けた展望を探ります。

2 取組の経過

地域の森林・林業の牽引者となる人材が早急に必要とされた経緯から、試験制度の開始に先立ち、資格取得者と同じ役割を担う者を養成するために「准フォレスター研修」を3年間実施してきました。

具体的には（准）フォレスターに求められる役割を理解し必要な能力を身につけることをねらいに、森林管理や林業経営の根幹となる森づくりの構想と森林資源の循環利用の考え方、路網整備や作業システムに関する知識、木材流通や利活用分野の最新情勢等々の習熟に加え、多様な利害関係者の合意形成に欠かせないコミュニケーション能力の向上などを目指しました。

森林総合監理士
(通称：フォレスター)とは？

- **広域的、長期的な視野**を持って地域の森林経営の **ビジョン**を描き、
- **中立的な立場**で地域の関係者を指導する、地域の森林・林業の **牽引者**

3 取組の成果と更なる課題

研修成果の一つとして、国・県・市町村等の職員が同じテーブルで研鑽を積むこと自体が、組織の枠を超えて議論を交わす貴重な機会となり、地域におけるネットワークづくりのきっかけとなりました。

その一方で、例えば国有林関係者には補助金制度をはじめとする民有林施策全般に馴染みが薄かったこと、県等の担当者はいわゆる林業の現場を経験する機会が少ないことなど、所属組織や経歴等による知識・技術の偏りのほか、地域の森林・林業関係者間の連携や民国にまたがる情報共有の不足など、それぞれの立場に潜在する問題とその解決のために乗り越えるべき課題も浮き彫りになりました。

これらを受けて、研修後のフォローアップや准フォレスター活動を支える体制づくりなどの取組も各地で **拡がりを見せ始めています**。

4 今後の取組と展望

森林総合監理士の理想的な活動の姿は、これから私達が創り上げていかねばなりません。

取り巻く状況の変化に柔軟かつ信念を持って対処し、価値ある活動を実行することによってのみ、

地域の森林・林業再生に不可欠な存在として根付くことが可能です。

そのためには、必要な技術・能力向上に資する取組を継続しつつ、各組織における位置づけと役割の明確化と、活動を支える体制づくりを進め、具体の事案における成功体験を積み重ねることが重要です。

その事例を全国レベルで共有し、各地域に当てはめて落とし込む作業を続けていくことが、日本型フォレスター制度の定着と森林総合監理士の活躍に繋がり、我が国の森林・林業再生を確固たるのものにする一つの大きな力になると考えています。

森林総合監理士の活躍に向けた展望

- 技術力・必要な能力の向上**
 - 地域全体、民国連携した人材育成の継続
 - フォローアップ研修・現地検討会等の開催
 - 活動から必要とされる内容の充実
 - これから森林総合監理士を目指す人の支援
- 組織における対策**
 - 位置づけと役割の明確化
 - 活動の枠組みと体制の確立
 - 新規事業への積極的な参画
- 成功体験の積み上げ・情報発信と共有**
 - 各ブロック毎と全国レベルのネットワーク構築
 - 簡易な方法による情報収集と発信、取得